

花田技研工業

溶融スラグを付加価値化 試作プラントが9月完成

清掃工場から排出される溶融スラグの再資源化に取り組む花田技研工業(株) (岡山市芳賀5303、花田義和社長、資本金1000万円) は、自社



開発の着色骨材「カラースラグ」の事業化に踏み切る。9月中にも美作市内に試作プラントが完成する予定で、「舗装用材料やコンクリートの二次製品向けに提案していく」(花田社長)と販路獲得に意欲的だ。

花田社長と「カラースラグ」使用の建

「カラースラグ」は、溶融スラグに6色のコーティング剤を塗布し、道路舗装や建材ボードの仕上げなどに使われる着色骨材として再利用する製品で、同社は独自技術(製法特許出願中)で表面処理と着色加工処理を行い、国内初の製品化にこぎ着けた。

これまで展示会などで製品を紹介したり、焼却炉メーカーを介して清掃工場の事業者である自治体へのサンプリングを続けてきたが、販売先(商社、原料ディーラー)の好感触を得たことから事業化に着手。プラン

トを設置し、量産体制を構築していく。

プラントの生産能力は月産40t。需要が伸び次第、新たな設備投資も検討していく。「重量物である以上、岡山から各地に運べばコストがかかる。原料は全国にあるので、消費地に生産拠点を設置し、地産地消を目指したい」(花田社長)との青写真も描いている。

「カラースラグ」の売上計画(19・3期)は3600万円。加工コストが高く、陶石や炭酸カルシウムな

どを使った従来品に比べて価格競争力が強いわけでもないが、花田社長は「自治体の公共事業で溶融スラグが使われるケースが増えている。当面は販路開拓に注力し、量産化など次のステップを考えていきたい」としている。